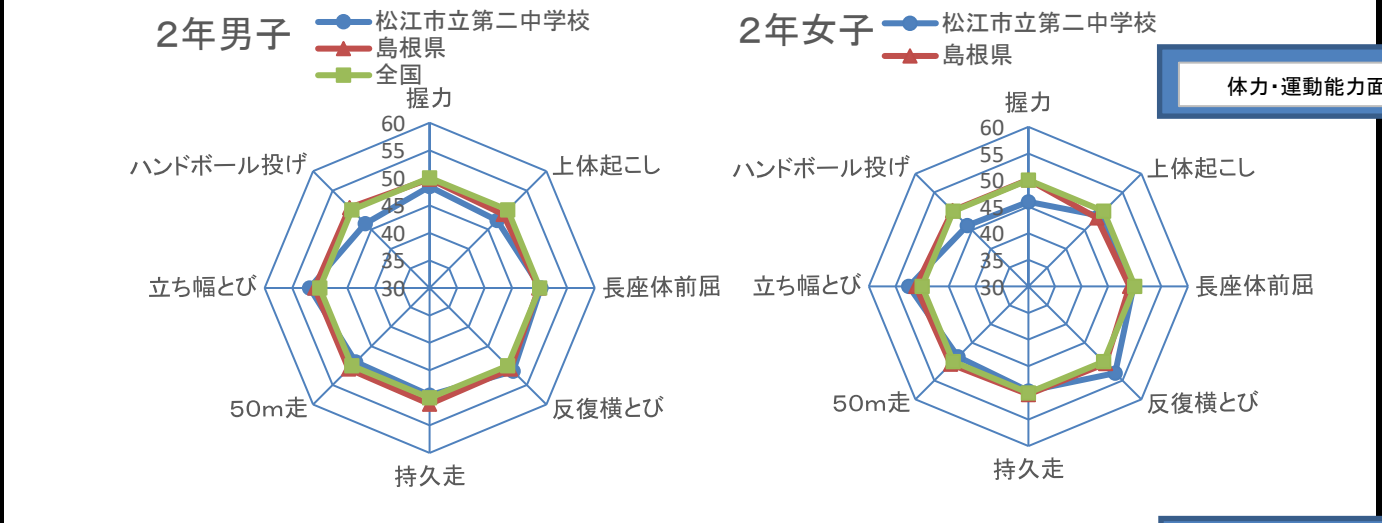
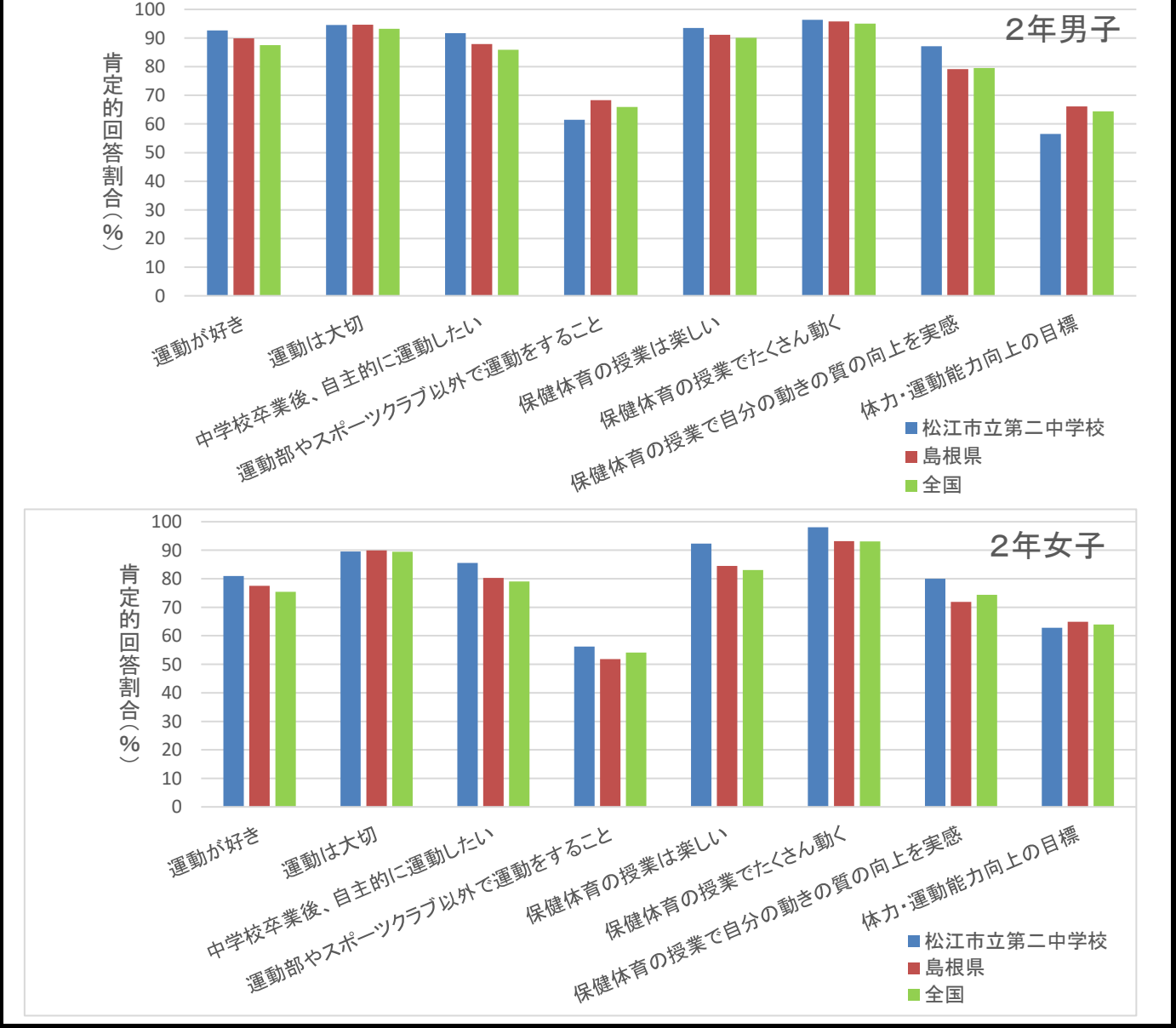


(1) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)

(2) 調査結果の分析



全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査＜意識調査＞の結果
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



①体力・運動能力面
強み
○男子では「反復横跳び」「立ち幅跳び」が全国平均を上回っている。特に「立ち幅跳び」が強み。 ○女子では「反復横跳び」「立ち幅跳び」が全国平均を上回っている。特に「反復横跳び」が強み
課題
●男子では「上体起こし」「ハンドボール投げ」が全国平均を下回り、特に「ハンドボール投げ」が課題。 ●女子では「握力」「ハンドボール投げ」において全国平均を下回り、特に「握力」が課題。
次年度の対策
強みとして、下半身や下肢の力があると考えられる。走る、跳ぶといった能力の高さがうかがえる。しかしながら上半身や上肢の力は強くなく、手指の力が強いことがはっきりした。よって全体のバランスを大切にしながら、握力向上、投力向上をめざしたい。補強運動として、腕立て伏せ(プッシュアップ)を、できる生徒は指立て伏せにしたりする。またバスケットボールを球技大会で行っているため、バスケットボールを遠投できるように努めたい。

②意識面
強み
○男子では「保健体育の授業で自分の動きの質の向上を実感」の割合が全国平均よりも高い。 ○女子では「保健体育の授業は楽しい」の割合が全国平均よりも高い。 ○特に男女とも「運動は大切である」、「保健体育の授業では体を動かすことが多い」と認識していることの割合が非常に高い。
課題
●男子では「体力・運動能力向上の目標」の割合が全国平均よりも低い。 ●女子では「体力・運動能力向上の目標」の割合が全国平均よりも低い。 ●男女とも「体力・運動能力向上の目標」が全国平均より低いが、それは特に男子で顕著に見られる。
次年度の対策
男子生徒は動きの質向上を考えていることがうかがえる。器械運動などを巧緻性など、女子は楽しいといったペアやグループ活動を大切にできているが理解できる。 しかし、体力・運動能力向上の目標が男女とも低いのは、体力テスト数値をさらに明確に示せていないためであると考えられるので、伸ばしやすい項目を一人ひとりに伝えながら指導していきたい。

(3) 令和4年度の方針【学校全体での取組】

- ①体力向上や体育授業に関する校内研修会等の計画について
 - ・校内での授業研究等に関する内容
初任者が3年目を終了し、これまで授業研究に取り組んできた。来年度以降は経験者研修がないものと想定し、校内で互いに授業を見学する場を設けていく必要があると感じている。
 - ・校内での研修会等に関する内容
校内で研修会を開催する機会がないことが多い。それは保健体育科の教師が授業等の時数が多いためであると感じている。しかし、年度当初で校内研修会を企画して、年間計画の中に盛り込んでいく必要があると感じている。
- ②体育科授業の工夫・改善について
 - ・授業改善に関する内容
互いに勉強をする機会だけでなく、向上心をもって改善していくことが重要である。特にICTを活用した授業改善が喫緊の課題であると考えている。
 - ・体力調査・運動能力調査結果の活用に関する内容
上記にも示したが、新体力テストの結果をさらに活用していくことが必要であり、テスト実施前に目標を考えさせ、テスト結果から振り返り(今後の改善)を行っていければと考えている。
- ③体育授業以外の活動の工夫について
 - ・全校で行う活動(例:縄跳び大会等)
全校では長距離走を1、2学期に実施しているが、近年の気候(夏場の暑さ)の指摘があり、今年度は半分に見送った。できれば室内で自分の力でやり抜ける「シャトルラン」に変更も視野に入れている。
 - ・かしこい体づくりに関する内容
中学生時は筋力と持久力が飛躍的に向上する時期であるので、その項目が自然と伸びていく仕掛けが必要である。保健体育科内で相談したい。
 - ・児童会活動との連携や環境整備に関する内容
生徒会の活動で体育会や球技大会の企画があるので、生徒たちから体力向上に向けた取り組みを考えさせたい。また企画の中で必要な器材を購入できるように保護者、PTAとの連携を図りたい。